

平成29年度 指導方法等の改善計画について [国語]

廿日市市立四季が丘小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 課題解決に必要な情報を取り出し、関連付けて考えたり、目的に応じて記述したりする力が不十分である。
- ローマ字を読み書きする力が不十分である。

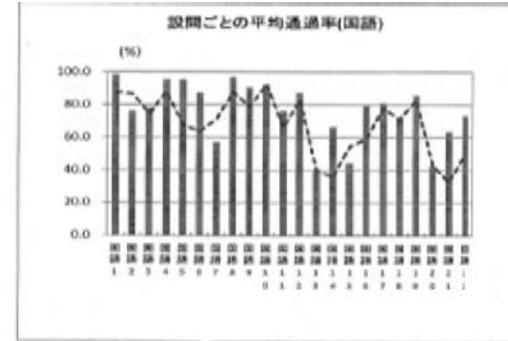
【取り組んだ事項】

- 文章や新聞・パンフレット・図表などに書いてある内容を読み取り、視点をもとに交流させ、字数や段落・根拠など、与えられた条件をもとに記述する活動を取り入れた。
- 1ヶ月に一度、拗音、促音、大文字を含むことばを読んだり書いたりするミニテストを行った。

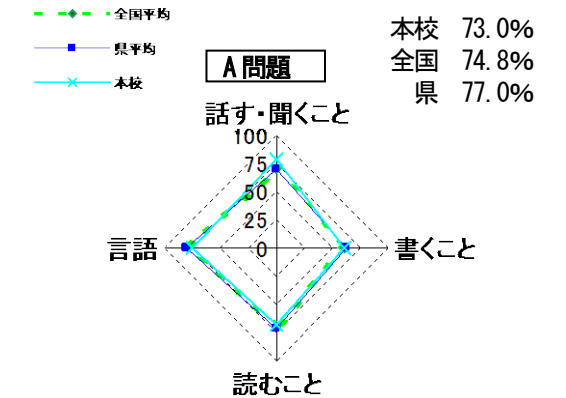
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	76.3%	78.5%	66.3%
県	68.0%	71.5%	52.4%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A 問題	B 問題
本校	73.0%	60.0%
全国	74.8%	57.5%
県	77.0%	61.0%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ タイプI「読むこと」の「叙述を基にした情景の想像」の平均通過率が39.7%と低い。正答に関わる場所を書いているが適切な字数で抜き出すことができていない児童が40%程度いる。主人公に起こった出来事が読み取れず、事実と感想とを区別することができていなかったことが要因と考えられる。必要な情報を定められた条件で抽出することに課題がある。
- ◎ タイプII「読むこと書くこと」の「情報の取り出し」の平均通過率が42.9%であった。情報量の多い資料から、目的となる情報を的確に取り出すことに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

- ◎ 要点・中心を抽出して整理したり、指示語が示す内容を考えたりしながら読む活動を取り入れる。土日の家庭学習で長文読解に取り組ませ、必要な情報を抽出したり、既定の条件で書いたりすることに慣れさせる。
- ◎ 各学年の説明文「表現の工夫・読み比べ」の学習において、書き手の意図や目的に応じた表現の工夫を読み取る力を身に付けることができるように、低学年では説明の仕方（表現）の違い、中学年では目的に応じた表現や構成の工夫、高学年では目的や意図に応じた表現や構成の工夫を読み取る等の系統的な指導を「課題発見・解決学習」の過程を取り入れて位置付ける。通過率30%未満の児童には、視覚的な支援やヒントカードの活用、ワークシートの工夫を取り入れる。

来年度の目標値

タイプI「読むこと」の「叙述を基にした情景の想像」及びタイプII「読むこと書くこと」の「情報の取り出し」の平均通過率を60%以上とする。

中間検証①(H29.12)

中間検証②(H30.2~3)

最終検証(H30.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
必要な情報を抽出したり、既定の条件で書いたりするために、長文読解に取り組む。	全校	学期末まとめのテストの平均点	80点以上	90.4点	週末の宿題で長文読解に取り組ませた結果、成果が出ている。今後は学年に応じた視写も取り入れる。	学年末まとめのテストの平均点	85点以上	90.7点	授業の中で、情報の取り出し、長文読解に取り組ませたことが目標達成につながった。特に高学年で成果が見られた。	H30 基礎基本タイプI「読むこと」の「叙述を基にした情景の想像」の平均通過率	60%以上	
書き手の意図や目的に応じた表現の工夫を読み取るために目的や意図に応じた表現や構成の工夫について読み取ったことを書く活動を位置付ける。	4・5年	H28 基礎基本「情報の取り出し」の正答率	50%以上	44%	目的に応じて必要な情報を取り出し、構成や記述に焦点化して指導してきた。国語科だけでなく他教科でも取り入れていく。	H29 基礎基本「情報の取り出し」の正答率	60%以上	56%	学力に大きな課題が生じないよう低学年段階から学習のつまずきを把握し、自分の考えを記述する際の基本的な指導を行う。	H30 基礎基本タイプII「読むこと・書くこと」の「情報の取り出し」の平均通過率	60%以上	

平成29年度 指導方法等の改善計画について [算数]

廿日市市立四季が丘小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 目的に応じた計算結果の見積もり方や見積もりの結果を判断する力が不十分である。
- 示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさをもとに、式の意味を表現する力が不十分である。

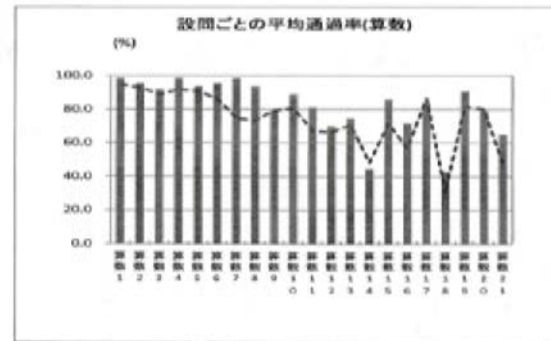
【取り組んだ事項】

- 習得した知識・技能を活用する場を単元末に取り入れた。
- 算数ことばを使って、図や式の意味の説明を記述する活動を取り入れた。

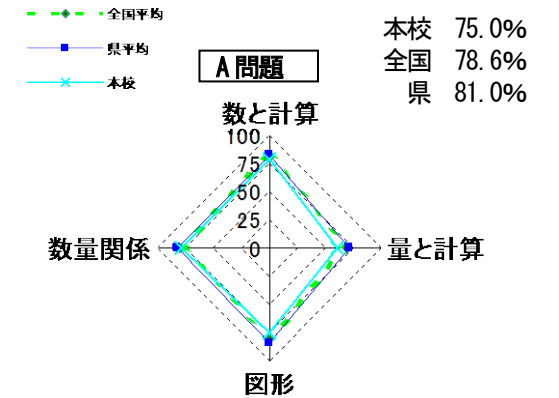
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	82.0%	85.0%	72.4%
県	74.3%	77.1%	65.4%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A問題	B問題
本校	75.0%	46.0%
全国	78.6%	45.9%
県	81.0%	47.0%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ タイプI「図形」領域「平行四辺形の判断」の平均通過率が44.4%であった。作図方法と図形の性質を関連付けながら図形を判断することに課題がある。
- ◎ タイプII「数と計算 数量関係」領域「二つの折れ線グラフの関連付け」の平均通過率が42.9%であった。グラフから読み取ったことを根拠に、示された事柄が正しくない理由を言葉や数を用いて説明することに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

- ◎ 図形の学習の作図では、作図の操作や意味を図形の定義や性質、また使用する用具の特性をもとに説明する活動を取り入れる。通過率30%未満の児童には、説明の型を提示し、それを活用しながらスモールステップで定着できるようにする。
- ◎ 解き方や考え方に理由や根拠を挙げ、図・式・算数ことば等を適切に用いて話し合う活動の場を設定する。また、図・表・グラフを多面的に見て読み取った情報をことばで整理したり、図・表・グラフと式やことばを関連付けて表現したりする活動を取り入れる。

来年度の目標値

「基礎・基本」タイプI「図形」領域及びタイプIIの平均通過率70%以上。

中間検証①(H29.12)

中間検証②(H30.2~3)

最終検証(H30.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
作図の操作や意味を図形の定義や性質、また使用する用具の特性をもとに説明する活動を取り入れる。	4・5年	H28「基礎・基本」図形の判断の正答率	60%以上	59%	既習の図形を作図する際にコンパスを用いる理由とその意味について考える場を朝学の時間に定期的に設定する。	H29「基礎・基本」図形の判断の正答率	70%以上	63%	図形の定義や性質、また用具の特性の関係について、理解に大きな課題のある6%の児童への個別指導を充実させる。	H30「基礎・基本」タイプI「図形」領域の平均通過率	70%以上	
解き方や考え方に理由や根拠を挙げ、図・式・算数ことば等を適切に用いて話し合う活動の場を設定する。	全学年	学期末まとめのテストの「数学的な考え方」の平均点	75点以上	86.5点	全体では到達目標は達成できたが、課題が見えた学年については2学級3展開の習熟度別指導を継続していく。	学年末まとめのテストの「数学的な考え方」の平均点	80点以上	89.6点	課題の見えた4・5学年に行った習熟度別指導において一定の成果が見られた。来年度は個に応じたさらなる工夫を取り入れ、継続していく。	H30「基礎・基本」タイプIIの平均通過率	70%以上	

平成29年度 指導方法等の改善計画について [理科]

廿日市市立四季が丘小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 問題把握（資料の読み取り）に課題がある。
- 基礎的な理科の知識の中から、条件に合ったものを選び出すことができていない。

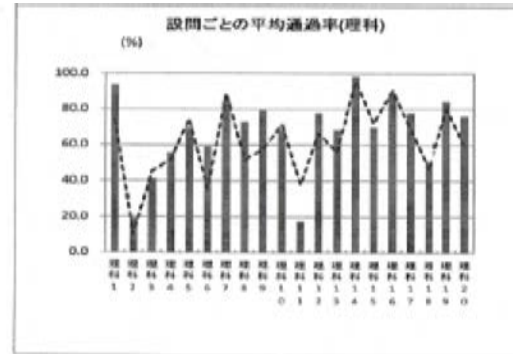
【取り組んだ事項】

- 「情報の収集」の場面では、問題把握を全体で行ったり、「整理・分析」及び「まとめ」の場面では、理科用語をもとに自分の考えを表現する活動を取り入れたりした。
- 視点を明確にして観察や実験を行った。また、実体験が困難な場合にはICTを活用し、疑似体験させた。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	67.6%	75.9%	57.5%
県	61.7%	70.4%	51.0%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率	
本校	%
全国	%
県	%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



区分	タイプI		タイプII			タイプI		タイプII			タイプI		タイプII									
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(1)	(1)										
領域	物質												エネルギー									
大問																						
小問																						
内容	水を注した時の体積変化	適切な検証方法の選択	予想の根拠	仮説に基づいた実験結果の予想	金属のあたり方	日光を照らしたときのあたたかさ	虫眼鏡による光の道筋	並列つなぎの回路のつなぎ方	閉路（並列つなぎ）の名称	光電池の特徴	虫眼鏡の使い方	理科1										
												理科2	理科3									
理科4	理科5	理科6	理科7	理科8	理科9	理科10	理科11	平均通過率		広島県平均通過率												
	93.7	19.0	41.3	85.6	69.8	58.7	84.1	73.0	79.4	68.3	17.5	73.9	10.4	45.1	51.7	74.5	35.6	88.7	51.7	57.6	71.4	37.8

重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ タイプI 「生命」領域「虫眼鏡の使い方」の平均通過率が17.5%であった。観察で使用する道具や器具の正しい使い方についての理解が十分でない。
- ◎ タイプII 「物質」領域「適切な検証方法の選択」の平均通過率が19.0%であった。空気でつぼうの前玉が飛ぶ理由を検証する実験道具を選択することや問題の意味を読み取ることに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

- ◎ 観察・実験や体験的な活動における道具や器具については、その正しい使い方や目的について根拠をもとに整理した上で取り扱い、慣れさせていく。
- ◎ 問題解決の過程の中で、理由を明確に説明する学習活動を設定する。
 - ①仮説を設定する際に、根拠を表現させる。
 - ②実験方法を考える際に、なぜその方法がよいのかその理由を表現させる。
 - ③考察する際に、仮説と結果の関係を明確にして自分の考えを表現させる。
 通過率30%未満の児童には、問題解決の過程を示したワークシートを提示する。

来年度の目標値

「基礎・基本」タイプI 「物質」領域及びタイプIIの平均通過率60%以上。

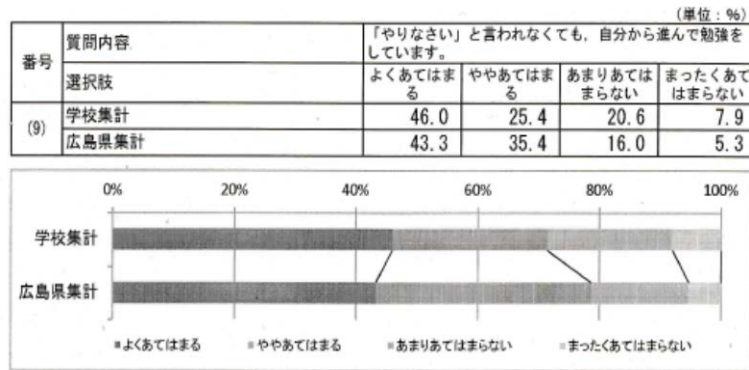
中間検証①(H29.12に)

中間検証②(H30.2~3)

最終検証(H30.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
観察・実験や体験的な活動における道具や器具については、その正しい使い方や目的について根拠をもとに整理する。	3~6年生	学期末まとめのテストの平均点	80点以上	89.5点	既習事項の確実な定着を図るための小テストだけでなく、観察・実験器具の技能テストを取り入れる。	学年末まとめのテストの平均点	80点以上	87.2点	自主勉強に既習事項のまとめを取り入れた成果が見られた。来年度も引き続き工夫を取り入れながら取り組ませる。	H30「基礎・基本」タイプIIの平均通過率	60%以上	
問題解決の過程の中で、理由を明確に説明する学習活動を設定する。	5~6年生	H28「基礎・基本」「物質」領域の平均通過率	50%以上	73%	児童の疑問や気付きから授業を展開し、観察・実験の方法や思考過程を自分の言葉でまとめる活動を継続して行っていく。	H29「基礎・基本」「物質」領域の平均通過率	55%	55%	目標値は達成したものの、理由を明確に説明することについては課題がある。既習事項や体験をもとに原因と結果の関係を明確に説明させる指導を取り入れる。	H30「基礎・基本」「物質」領域の平均通過率	60%以上	

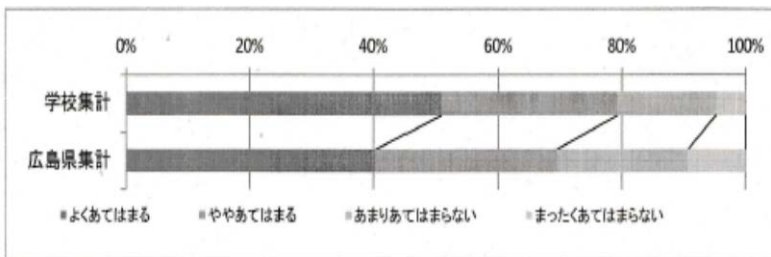
(1) 生活・学習



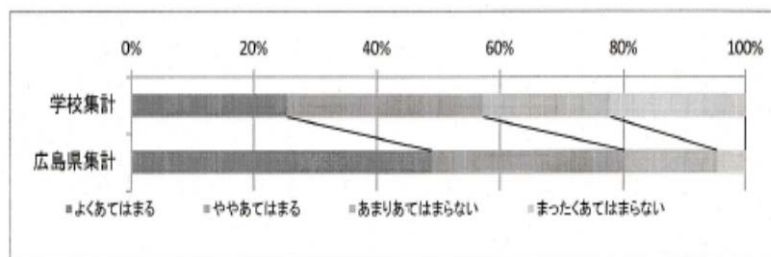
	児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの幅
基礎・基本	「やりなさいと言われなくても、自分から進んで勉強をしています」についてあてはまると答えた児童が71.4%である。	学習に見通しを持たせるとともに、課題解決の意欲を高めることができるような問題提示の工夫を取り入れる。単元全体及び毎時間の学習レリバンスを十分に活かした授業づくりを行う。	5	肯定的回答 70%以上	アンケート調査	2月	90.0%	18.6%
全国	「家で、学校の授業の予習をしています」についてあてはまると答えた児童が32.7%である。	自主勉強の内容を予習・復習の視点をもってメニュー化し、バランスよく取り組むことができるよう指導する。	6	肯定的回答 70%以上	アンケート調査	2月	65.4%	33%

(2) 教科

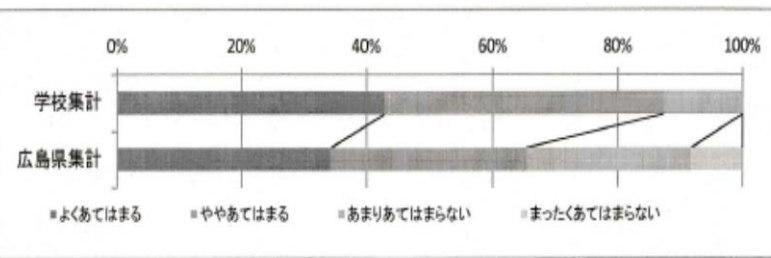
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



算数の授業では、少ない人数で学習する方がよく分かります。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの幅
国語	基礎・基本 「分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べている」についてあてはまると答えた児童が79.4%である。	すぐに辞書を引くことができる環境をつくり、辞書を使うことに慣れ親しむことができるようにする。「読むこと」や言語事項についての学習では積極的に辞書を活用する。	5	肯定的回答 90%以上	アンケート調査	2月	93.5%	14.1%
	全国 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫しています」についてあてはまると答えた児童が73.1%である。	子ども新聞等を活用し、時間制限の中で文章の構成や内容をおさえながら読む活動を取り入れる。読み取った内容を「はじめ・中・おわり」の構成で表現し交流する場を設定する。	6	肯定的回答 80%以上	アンケート調査	2月	73.4%	0.3%
算数	基礎・基本 「少ない人数で学習する方がよく分かる」についてあてはまると答えた児童が57.1%である。	少人数指導を取り入れ、どの子にとってもわかる・できる授業を行う。	5	肯定的回答 85%以上	アンケート調査	2月	71.0%	13.9%
	全国 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい」についてあてはまると答えた児童が75.0%である。	課題解決の意欲を高めることにつながる様々な問題提示の工夫を取り入れる。	6	肯定的回答 85%以上	アンケート調査	2月	91.9%	16.9%
理科	基礎・基本 「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています」についてあてはまると答えた児童が87.3%である。	予想・結果・考察において、根拠を基に自分の考えをもち、書く活動を通してグループで交流する場を設定する。	5	肯定的回答 90%以上	アンケート調査	2月	74.2%	-13.1%